

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|---------|------------|
| 教科 (科目) | 農業 (作物) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 2年次 (食料環境) |
| 使用教科書 | 「作物」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし (ただし、3年次でこの科目を履修するには、2年次でこの科目を履修していること。) | | | | |

1 学習目標

作物の栽培と経営に必要な知識と技術習得させ、作物の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・地域の実態を踏まえ、稲作を慣行栽培を通して学習させる。
- ・作物の種類による生産、需給と利用などについてできるだけ興味関心を持たせる。
- ・作物生産に必要な植物の生理生態の他、土壌、栄養、病害虫、雑草、気象など栽培環境面を合わせて学ばせ理解させる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|----|----------------|----------------------|--------------|---|-------|--------|
| 4 | 作物生産の 役割と動向 | 第1章 作物の生産と利用 | 知識・理解 | ・作物と作物生産の役割について学ぶ ・作物の特徴と種類について学ぶ ・世界の食糧需給について学ぶ ・わが国の作物生産の動向について学ぶ ・稲作栽培実習を並行して行う 種もみの準備 育苗 本田準備 移植 生育調査 一般管理等 | 2 | 定期テスト |
| 5 | | | 関心・意欲 | | 2 | 授業の取り |
| 6 | | | 態度 | | 2 | 組み |
| 7 | | | | | 6 | 調査レポー |
| 9 | | | | 1 2 | ト | ノート提出 |
| 10 | 作物の特性 と作物生産 | 第2章 作物特性と栽培技 術 | 知識・理解 | ・作物の一生と生活史について知る ・栄養、生殖成長の進み方学ぶ ・作物の生理生態について学ぶ ・作物の部位別利用と栽培のポイント ・作物の収量と栽培環境について 光合成と収量の関係について学ぶ ・作物の品種と収量、品質の関係につ いて学ぶ ・地域環境・土地利用と作物生産につ いて学ぶ ・作物生産と情報の利用について学ぶ ・稲作栽培実習を並行して行う 収穫 乾燥、調整 収量調査 | 2 | 定期テスト |
| 11 | | | 関心・意欲 | | 2 | 授業の取り |
| 12 | | | 態度 | | 2 | 組み |
| 1 | | | | | 2 | 調査、実習レ |
| 2 | | | 思考・判断・ 表現 | | 8 | ポート |
| 3 | | | 5 | 2 3 | ノート提出 | |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートのまとめ
- ・学期ごとのノート提出

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|--|
| 評価規準 | 作物生産の役割やその栽培、経営に関心を持ち、基本的な栽培管理に主体的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身に付けようとしている。 | 作物の諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する実践的な能力を身に付けようとしている。 | 作物に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 作物に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その栽培的、経営的特性と栽培技術を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業への取り組み態度を総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から作物についての興味、関心を持っておくと良い。
- ・農具、農業機械を用いるため指導には従い服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|--------------------|-----|---|---------|------------|
| 教科 (科目) | 農業 (作物) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 3年次 (食料環境) |
| 使用教科書 | 「作物」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次に「作物」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

作物の栽培と経営に必要な知識と技術習得させ、作物の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・地域の実態を踏まえ、慣行栽培を通して学習させる。
- ・作物の種類による生産、需給と利用などについてできるだけ興味関心を持たせる。
- ・作物生産に必要な植物の生理生態の他、土壌、栄養、病害虫、雑草、気象など栽培環境面を合わせて学ばせ理解させる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|-----------------------------|-------|-----------|--|--|-----|--|
| 4 5 6 7 9 10 | 作物の生産 | 第3章 イネ | 知識・理解 関心・意欲 態度 思考・判断 表現 資料活用 の 技能 | ・栽培の実際として 次の稲作栽培実習と生育調査を行う 種もみの準備 床土、施設の準備 育苗 本田の準備 移植 移植後の本田の管理 収穫と調整 米の品質と規格 | 4 4 | 定期テスト 授業の取り 組み 調査レポー ト ノート提出 |
| 11 12 1 2 | | | 知識・理解 関心・意欲 態度 思考・判断 表現 | ・稲作と米の利用について学ぶ ・イネの一生と成長 たねもみの発芽・苗の生長・分けつ 葉や根の生長と働き・開花、結実 ・収量の成り立ちまでを学ぶ ・生育・収量と栽培環境の関係につ いて学ぶ ・稲作経営、米流通の特徴とその改善 について学ぶ | 2 6 | 定期テスト 授業の取り 組み 調査、実習レ ポート ノート提出 |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートのまとめ
- ・学期ごとのノート提出

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用 の 技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|--|
| 評価規準 | 作物生産の役割やその栽培、経営に関心を持ち、基本的な栽培管理に主体的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身に付けようとしている。 | 作物の諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する実践的な能力を身に付けようとしている。 | 作物に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 作物に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その栽培的、経営的特性と栽培技術を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業への取り組み態度を総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から作物についての興味、関心を持っておくと良い。
- ・農具、農業機械を用いるため指導には従い服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|---------|------------|
| 教科 (科目) | 農業 (野菜) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 2年次 (食料環境) |
| 使用教科書 | 「野菜」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし (ただし、3年次でこの科目を履修するには、2年次でこの科目を履修していること。) | | | | |

1 学習目標

野菜の生産と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・果菜類、根菜類の栽培管理技術を身につける。
- ・野菜の種類や分類、特徴を理解する。
- ・野菜生産に生理、栽培環境に関する知識を理解する。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|----|---|---|--|---|-----|-------------------------------------|
| 4 | 第2章 「野菜の生産と品質」 | ○実習 (晴天時中心) 果菜類の栽培管理実習 | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 思考・判断・表現 | ・果菜類の栽培管理技術を身につける。 ・野菜の生理を理解する。 ・課題の設定から解決の過程を体得する。 | 1 4 | 実習レポートの提出 実習への取組 |
| 5 | | ○講義 (雨天時中心) 2-1 種子と発芽 3-7 果菜類の育苗 | | | | |
| 6 | | 第3章 「野菜の栽培と環境管理」 | | | | |
| 7 | ○講義 (雨天時中心) 2-3 茎葉の生育と結球 2-4 花芽の分化・発達と果実の肥大 | | | | | |
| 9 | 第1章 「野菜の生産と利用」 第3章 「野菜の栽培と環境管理」 | ○実習 (晴天時中心) 根菜類の栽培管理実習 | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 思考・判断・表現 | ・根菜類の栽培管理技術を身につける。 ・野菜の生理を理解する。 ・課題の設定から解決の過程を体得する。 | 1 4 | 実習レポートの提出 実習への取組 定期考査 |
| 10 | | ○講義 (雨天時中心) 2-2 根の発達と肥大 3-1 野菜の健全な生育と環境 | | | | |
| 11 | | ○実習 (晴天時中心) 根菜類の栽培管理実習 | | | | |
| 12 | ○講義 (雨天時中心) 3-2 土壌管理と施肥 3-6 有害生物の管理 | | | | | |
| 1 | 第1章 「野菜の生産と利用」 第3章 「野菜の栽培と環境管理」 | 1-1 人間生活と野菜 3-3 被覆資材の利用 3-4 施設栽培と環境管理 | 知識・理解 思考・判断・表現 | ・栽培環境と栽培管理方法を理解する。 | 1 0 | 定期考査 |
| 2 | | 3-5 養液栽培技術 | | | | |
| 3 | | | | | | |

4 課題・提出物等

- ・実習レポートの提出。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|--|
| 評価規準 | 野菜について関心を持ち、基礎的な栽培管理について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 野菜に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 野菜に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 野菜に関する基礎的な知識を身に付け、野菜の特性や生育に適した環境を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、ノート、出欠、授業態度など総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から野菜の流通時期、種類、利用の仕方などに興味を持っておくとよい。
- ・農具を用いるため、安全には十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|--------------------|-----|---|---------|------------|
| 教科 (科目) | 農業 (野菜) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 3年次 (食料環境) |
| 使用教科書 | 「野菜」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次に「野菜」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

野菜の生産と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・果菜類、葉菜類、根菜類の栽培管理技術を身につける。
- ・野菜の種類や分類、特徴を理解する。
- ・野菜生産に関わる生産、流通などに関する知識を理解する。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 | | |
|-------------|---|---|--|--|--|---|-----|------------------------|
| 4 5 | 第4章 「野菜栽培 の実際」 | ○実習 (晴天時中心) 果菜類の栽培管理実習 ○講義 (雨天時中心) 4-1 ナス科野菜 4-2 ウリ科野菜 4-3 マメ科野菜 | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 思考・判断・表現 | ・果菜類の栽培管理技術を身につける。 ・野菜の特徴を理解する。 | 1 4 | 実習ノート の提出 | | |
| 6 7 8 | | | | ・果菜類の栽培管理技術を身につける。 ・栽培管理方法を理解する。 | 1 6 | 実習への取 組 定期考査 | | |
| 9 10 | | | | ○実習 (晴天時中心) 葉菜類、根菜類の栽培 管理実習 ○講義 (雨天時中心) 4-3 アブラナ科野菜 4-5 各種野菜 | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 思考・判断・表現 | ・葉菜類、根菜類の栽培管理技術を身につけ る。 ・野菜の特徴を理解する。 | 1 4 | 実習ノート の提出 |
| 11 12 | | | | | | ・葉菜類、根菜類の栽培管理技術を身につけ る。 ・栽培管理方法を理解する。 | 1 6 | 実習への取 組 定期考査 |
| 1 2 | 第1章 「野菜の生 産と利用」 第2章 「野菜の生 産と品 質」 第5章 「これから 野菜経営」 | 1-2. 野菜の生産と消 費の動向 2-6. 野菜の品質とそ の管理 5-1. 野菜生産の経営 的特徴 5-2. 野菜の流通の仕 組みと販売 5-4. これからの野菜 の生産と経営 | 知識・理解 思考・判断・表現 | ・野菜生産と消費の変化について理解する。 ・野菜生産の経営方法について理解する。 ・野菜の流通について理解する。 ・野菜生産の問題と課題について理解する。 | 1 0 | 定期考査 | | |

4 課題・提出物等

- ・実習ノートの提出。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|--|
| 評価規準 | 野菜について関心を持ち、基礎的な栽培管理について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 野菜に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 野菜に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 野菜に関する基礎的な知識を身に付け、野菜の特性や生育に適した環境を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、ノート、出欠、授業態度など総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から野菜の流通時期、種類、利用の仕方などに興味を持っておくとよい。
- ・農具を用いるため、安全には十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|--|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（畜産） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 2年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「畜産」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし（ただし、3年次でこの科目を履修するには、2年次でこの科目を履修していること。） | | | | |

1 学習目標

家畜飼育に必要な基礎的な知識と技術を習得させ、中家畜の特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と品質や生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・家庭生活における畜産物や動物とのふれあいなどの実態を踏まえ、具体的事例を通して学習させる。
- ・中家畜の種類や需給、生産と利用などについて興味・関心を持たせる。
- ・家畜飼育に必要な生理生態や飼育技術などを理解させる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-------------------------|--------------|--------------------------------|--|--|----|----------------|
| 4 5 6 | 畜産の役割と 動向 | 第1章 日本畜産の特徴 | 関心・意欲・態度 知識・理解 | ・家畜について関心をもち、人間生活における畜産の役割について探求する。 ・現在の畜産の現状を考え、食料需給など人間生活と畜産の関わりについて理解する。 | 14 | 定期テスト 授業の取組 |
| 7 8 9 10 | 家畜の飼育 | 第4章 家畜の飼育 ○中家畜の飼育 ・ヤギ | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 活用の技能 | ・ウシ、ウマなどとともに五畜の一つであるヤギについて関心を持ち飼育管理について主体的に取り組む。 ・ヤギの特徴や利用をとおして、人間生活におけるヤギの役割を理解する。 ・地域に適したヤギの品種や環境条件や病気を防ぐ方法を考える。 ・ヤギに関する基礎的・基本的な飼育技術を身に付ける。 | 28 | 定期テスト 授業の取組 |
| 11 12 1 2 3 | | 第4章 家畜の飼育 ○中家畜の飼育 ・ブタ | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 活用の技能 | ・家畜の中でも発育が早く、繁殖能力に優れているブタについて関心を持ち探求しようとする。 ・ブタの特徴や利用をとおして、人間生活におけるブタの役割を理解する。 ・地域に適したブタの品種や環境条件や病気を防ぐ方法を考える。 ・ブタに関する基礎的・基本的な飼育技術を身に付ける。 | 28 | 定期テスト 授業の取組 |

4 課題・提出物等

- ・実習終了後、レポートやノートなどの提出があり。
- ・夏季休業中に実習を行う（別途連絡）

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|---|
| 評価規準 | 畜産について関心をもち、基礎的な飼育管理について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 畜産に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 畜産に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 畜産に関する基礎的な知識を身に付け、畜産の特性や家畜の生育に適した環境や管理について理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から動物や家畜などに興味を持っておくとよい。
- ・農具を用いるため、安全には十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|--------------------|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（畜産） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「畜産」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次に「畜産」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

家畜飼育に必要な基礎的な知識と技術を習得させ、大家畜の特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と品質や生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・家庭生活における畜産物や動物とのふれあいなどの実態を踏まえ、具体的事例を通して学習させる。
- ・中家畜の種類や需給、生産と利用などについて興味・関心を持たせる。
- ・家畜飼育に必要な生理生態や飼育技術などを理解させる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|--------------------|----------------------------------|-------------------|---|----|----------------|
| 4 | 家畜の飼育 | 第4章 家畜の飼育 ○大家畜の飼育 ・肉牛 | 関心・意欲・態度 | ・肉牛について関心を持ち飼育管理について主体的に取り組む。 ・肉牛の特徴や利用をとおして、人間生活における肉牛の役割を理解する。 ・地域に適した肉牛の品種や環境条件や病気を防ぐ方法を考える。 ・肉牛に関する基礎的・基本的な飼育技術を身に付ける。 | 30 | 定期テスト 授業の取組 |
| 5 | | | 知識・理解 | | | |
| 6 | | | 思考・判断・表現 活用の技能 | | | |
| 7 | 家畜飼育の実際 | 第4章 家畜飼育の実際 ○大家畜の飼育 ・乳牛 | 関心・意欲・態度 | ・乳牛について関心を持ち、学習について主体的に取り組む。 ・乳牛の特徴や利用をとおして、人間生活における乳牛の役割を理解する。 ・地域に適した乳牛の品種や環境条件や病気を防ぐ方法を考える。 ・乳牛に関する基礎的・基本的な飼育技術を身に付ける。 | 30 | 定期テスト 授業の取組 |
| 8 | | | 知識・理解 | | | |
| 9 | | | 思考・判断・表現 活用の技能 | | | |
| 10 | 11 12 1 2 | 第2、3章 家畜の生理・生態と飼料 | 関心・意欲・態度 | ・家畜の生理・生態、飼料の栄養について関心を持ち、学習について主体的に取り組む ・家畜の体の特徴をとおして、家畜に適した飼料について理解する。 ・家畜の種類や生育段階における飼養管理などを身につける。 | 10 | 定期テスト 授業の取組 |
| 11 | | | 知識・理解 | | | |
| 12 | | | 思考・判断・表現 活用の技能 | | | |

4 課題・提出物等

- ・実習終了後、レポートやノートなどの提出があり。
- ・夏季休業中に実習を行う（別途連絡）

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|---|
| 評価規準 | 畜産について関心を持ち、基礎的な飼育管理について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 畜産に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 畜産に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 畜産に関する基礎的な知識を身に付け、畜産の特性や家畜の生育に適した環境や管理について理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から動物や家畜などに興味を持っておくとよい。
- ・農具を用いるため、安全には十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|--|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（果樹） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 2年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「果樹」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし（ただし、3年次でこの科目を履修するには、2年次でこの科目を履修していること。） | | | | |

1 学習目標

果樹生産に必要な基礎的な知識と技術を習得させ、果樹の特性や果実生産に適した環境を理解させる。

2 指導の重点

- ・食生活や地域の果樹栽培の実態を踏まえ、具体的事例を通して学習させる。
- ・果実の種類や需給、生産と利用などについて興味・関心を持たせる。
- ・果樹生産に必要な生育と生理、栽培環境などを調節する技術などを理解させる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----------------|------------------------------|--------------------|--|--|-----|----------------|
| 4 5 6 | 果実生産の 役割と動向 | 第1章 果樹の種類と 果樹栽培 | 知識・理解 関心・意欲・態度 | ・果樹と野菜の違いや身近な果樹（果実） を通して、食生活と果樹について学ぶ。 ・世界や日本の果実の需給、流通について ついて学ぶ。 | 1 4 | 定期テスト 授業の取組 |
| 7 8 9 | 果樹の成長 と果実生産 | 第2章 果樹の生育と 栽培環境 | 知識・理解 活用の技能 | ・果樹のサイクル（一生や1年）について知る。 ・落葉果樹と常緑果樹、各器官の特徴を学ぶ。 ・芽の種類や結果習性について学ぶ。 ・芽かき、誘引、摘果など基本的な管理作業 を身に付ける。 | 2 2 | 定期テスト 授業の取組 |
| 10 11 12 | 果樹栽培の 基礎 ・適地 ・整枝せん定 | 第3章 果樹の栽培管 理 | 知識・理解 活用の技能 思考・判断・表現 | ・果樹の環境条件や年間の管理について知る。 ・枝の種類や樹形、整枝せん定について学ぶ。 ・基礎的な整枝せん定方法基礎を身に付ける。 | 2 0 | 定期テスト 授業の取組 |
| 1 2 3 | 落葉果樹の 栽培 | 第9章 カキ | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 活用の技能 | ・地域で生産が多いカキについて関心を持ち 栽培管理について主体的に取り組ませる。 ・カキの特徴と利用、種類・品種について学ぶ。 ・地域に適したカキの品種や生理的落果や隔 年結果を防ぐ方法を考える。 ・カキに関する基礎的・基本的な技術を身に付 ける。 | 1 4 | 定期テスト 授業の取組 |

4 課題・提出物等

- ・実習終了後、レポートやノートなどの提出があり。
- ・夏季休業中に実習を行う（別途連絡）

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|--|
| 評価規準 | 果樹について関心を持ち、基礎的な栽培管理について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 果樹に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 果樹に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 果樹に関する基礎的な知識を身に付け、果樹の特性や生育に適した環境を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から果樹の流通時期、種類、利用の仕方などに興味を持っておくとよい。
- ・農具を用いるため、安全には十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|--------------------|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（果樹） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「果樹」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次に「果樹」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

果樹生産に必要な知識と技術を習得させ、果樹の品質や生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・地域の果樹栽培の実態を踏まえ、具体的事例を通して学習させる。
- ・春先の芽かきや誘引から夏秋の摘果（摘房）まで主体的に学習させる。
- ・果樹の品質改善や生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-----------------------|---------|-------------------------------|--|--|-----|----------------|
| 4 5 6 7 8 | 落葉果樹の栽培 | 第7章 ブドウ | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 活用の技能 | ・県内でカキ、ナシなどとともに生産が多いブドウについて関心を持ち栽培管理について主体的に取り組ませる。 ・ブドウの特徴と利用、種類・品種について学ぶ。 ・地域に適した品種、生理障害や病害虫の被害を防ぐ方法を考える。 ・ブドウのせん定や誘引などの技術を身に付ける。 | 2 8 | 定期テスト 授業の取組 |
| 9 10 11 | | 第6章 ナシ | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 活用の技能 | ・県内で生産が多いナシについて関心を持ち栽培管理について主体的に取り組ませる。 ・ナシの特徴と利用、種類・品種について学ぶ。 ・地域に適した品種、生理障害や病害虫の被害を防ぐ方法を考える。 ・ナシのせん定や誘引などの技術を身に付ける。 | 2 8 | 定期テスト 授業の取組 |
| 12 1 2 | | 第4章 その他の果樹 キウイフルーツ イチジク | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 活用の技能 | ・近年、生産が多いキウイフルーツ、イチジクについて関心を持ち栽培管理について主体的に取り組ませる。 ・キウイフルーツ、イチジクについて特徴と利用、種類・品種について学ぶ。 ・地域に適した品種、よい果実を収穫する方法を考える。 ・キウイフルーツ、イチジクのせん定や誘引などの技術を身に付ける。 | 1 4 | 定期テスト 授業の取組 |

4 課題・提出物等

- ・実習終了後、レポートやノートなどの提出があり。
- ・夏季休業中に実習を行う（別途連絡）

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|--|
| 評価規準 | 果樹について関心を持ち落葉果樹の栽培管理について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 果樹に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 果樹に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 果樹に関する基礎的な知識を身に付け、果樹の特性や生育に適した環境を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から果樹の流通時期、種類、利用の仕方などに興味を持っておくとよい。
- ・農具を用いるため、安全には十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|---------------|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（農業経営） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「農業経営」実教 | | | | |
| 副教材等 | 適宜学校斡旋の副教材を使用 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし | | | | |

1 学習目標

農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

農業簿記、農業政策、農業法規等、社会的な要素が多い科目。地域農業の情報収集・分析、農家市場の調査を通して知識・技術を身に付ける。また、実際に栽培している作目や地域の特産物等についても、農業経営の設計と管理ができるように学習する。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 | | | | | |
|----|------------|--|--|---|----|------------------------|----------------|--|--|----|------------------------|
| 4 | 農業の動向と農業経営 | 第1章 農業の動向と農業経営 第2章 農業経営の組織と運営 第3章 農業経営と情報 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> わが国と世界の農業の現状を知り、食料の供給について考える。 農業経営体系を理解し、経営の環境条件と望ましい経営のあり方について考察する。 農業の経営組織を理解し、現状について考える。 農業経営の理念と目標、利益について理解する。 農業経営に必要な情報を知り、それらの情報が経営に活動に及ぼす影響を理解する。 農産物の生産・流通におけるマーケティングの必要性・重要性を理解する。 | 30 | 授業の取組 レポート 定期テスト | | | | | |
| 5 | 農業経営の組織と運営 | | | | | | | | | | |
| 6 | 農業経営と情報 | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | |
| 9 | 農業経営の会計 | | | | | | 第4章 農業経営の会計 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 資料活用の技術 | <ul style="list-style-type: none"> 簿記の意味や要素などを理解する。 複式簿記による原価計算とその仕組みについて理解する。 簿記の基礎について学ぶ（簿記とは、資産負債資本と貸借対照表、収益費用と損益計算書、取引と勘定、仕訳と転記、仕訳帳と総勘定元帳、試算表、清算表、決算） 各種取引の記帳と決算について学ぶ（現金預金、棚卸資産、掛け取引、債権債務、固定資産、資本、収益費用、決算、帳簿と伝票） 原価計算について学ぶ（農業経営と原価計算、原価の意味、原価要素の分類、原価計算、原価計算と勘定の振替） | 30 | 授業の取組 レポート 定期テスト |
| 10 | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | |
| 1 | 農業経営の診断と設計 | 第5章 農業経営の診断と設計 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 資料活用の技術 | <ul style="list-style-type: none"> 農業経営の診断の大切さと、農業経営診断のための色々な指標を理解する。 農業経営診断の手順と方法を学び、自身でも診断をしてみる。 | 10 | 授業の取組 レポート 定期テスト | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | |

4 課題・提出物等

レポートやノートなどの提出

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|---|---|
| 評価規準 | 農業経営について関心を持ち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 農業経営に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けようとしている。 | 農業経営に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 農業経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、意義や役割を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、レポート、出欠、授業態度など観点別に総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

・定員40名

| | | | | | |
|---------------|--|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（農業機械） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「農業機械」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 「乙種4類危険物取扱者テキスト（実教）」（800円） | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 履修条件なし 乙種4類危険物取扱者、小型フォークリフト、車両系建設機械 | | | | |

1 学習目標

農業機械と取り扱いと維持管理に必要な知識と技術を習得させ、機械の構造と作業上の特性を理解させるとともに、農業機械の効率的な利用を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・実際に野菜機械を取り扱う経験が少ないため実践的な学習を行う
 - ①農業機械の取り扱い技術を身につける。
 - ②農業機械の仕組みについて理解する。
 - ③資格取得をめざして学習する。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|------------------|---|--|---|-----|------------------------------|
| 4 | 第2章 「原動機」 | ○講義 2-1 内燃機関 燃料と潤滑油 危険物取扱者（乙4） | 知識・理解 関心・意欲・態度 | ・危険物取扱者（乙4）の資格取得をめざしてテキストを取り組む | 1 4 | 定期考査 |
| 5 | | | | | | |
| 6 | 第4章 「作業機」 | ○講義 2-1 内燃機関 燃料と潤滑油 危険物取扱者（乙4） ○実習 刈払い機 | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 思考・判断・表現 | ・危険物取扱者（乙4）の資格取得をめざしてテキストを取り組む ・刈払い機の安全作業を行う知識と技術を身につける。 | 1 6 | 定期考査 実習への取組 実技 |
| 7 | | | | | | |
| 8 | 第3章 「トラクタ」 | ○実習（晴天時中心） 乗用トラクタ ○講義（雨天時中心） 3-1 乗用トラクタ | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 思考・判断・表現 | ・乗用トラクタの安全作業を行う知識と技術を身につける。 | 1 4 | 実習への取組 実技 |
| 9 | | | | | | |
| 10 | | | | | | 定期考査 |
| 11 | 第2章 「原動機」 | ○実習 エンジン分解・組立 ○講義 2-1 内燃機関 | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 思考・判断・表現 | ・4サイクルガソリンエンジンの仕組みを学ぶ。 ・工具の正しい使用方法を身につける。 | 1 6 | 実習への取組 実技 定期考査 |
| 12 | 第5章 「農業機械と安全」 | ○実習 溶接 ○講義 5-1 農業機械の整備と保守 5-2 農作業による事故と健康障害 | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 思考・判断・表現 | ・アーク溶接の安全作業を行う知識と技術を身につける。 ・農業機関の安全知識を理解する。 | 1 0 | 実習への取組 実技 定期考査 |
| 1 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |

4 課題・提出物等

特になし

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|---------------------------|
| 評価規準 | 機械について関心を持ち、基礎的な操作について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 機械に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 機械に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 機械に関する基礎的な知識を身に付けようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、出欠、授業態度など総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から農業機械の仕組みなどに興味を持っておくとよい。
- ・農具を用いるため、特に安全には十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|--|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（食品製造） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 2年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「食品製造」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の加工実習服 実習材料費 3000円程度（検便代を含む） | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし（ただし、3年次でこの科目を履修するには、2年次でこの科目を履修していること。） | | | | |

1 学習目標

食品製造に必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を養う。

2 指導の重点

- ・食生活や地域の加工食品の実態を踏まえ、具体的事例を通して学習させる。
- ・加工食品の種類や需給、生産と利用などについて興味・関心を持たせる。
- ・食品加工に必要な材料の種類と特性について理解し、その加工食品の作り方を習得する。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----------------|---------------------------|--|--|---|----------------|------------------------|
| 4 5 | 食品製造の意義と動向 食品製造の基礎 | 第1章 食品製造の意義と同行 第2章 食品製造の基礎 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 資料活用の技術 | 食品について、正しく理解する。 消費者のニーズに対応する必要性を知る。 食品産業の特色について理解する。 日本の食文化と食品産業、及び食品産業の抱える問題点について考える。 食品の分類、加工食品の種類と特徴を理解する。 食品に含まれる栄養素の種類と働きを知る。 | 1 2 | 授業の取組 レポート 定期テスト |
| 6 7 9 | 農産物の加工 | 第6章 農産物の加工 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 資料活用の技術 | 穀類の種類とその特徴を知る。 穀類の加工原理を理解する。 | 2 2 | 授業の取組 レポート 定期テスト |
| 10 11 12 | 畜産物の加工 | 第7章 畜産物の加工 ・鶏卵の加工 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 資料活用の技術 | 鶏卵の得量と加工特性を知る。 鶏卵の特性と加工原理を理解する。 | 1 0 1 0 | 授業の取組 レポート 定期テスト |
| 1 2 3 | 食品加工と食品衛生 | 第5章 食品加工と食品衛生 ・食品と食品衛生 第4章 食品の包装と表示(加工食品の表示制度) | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 資料活用の技術 | 食品の安全を守るための食品衛生の重要性を理解する。 加工食品の表示の意義や目的を理解する。 | 8 8 | 授業の取組 レポート 定期テスト |

4 課題・提出物等

実習及び指定課題に関するレポートやノートの提出がある

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|---|--|---|--|
| 評価規準 | 食品製造に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 食品製造に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、食品製造に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けようとしている。 | 食品製造の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、製造に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用しようとしている。 | 食品製造の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、食品製造の意義や役割を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、提出物（ノート、レポート）、出席状況、学習状況及び製造実習の成果、取り組み状況について、総合的に評価します。 | | | |

6 担当者からの一言

実習については、全員で協力して取り組むこと。また、いろいろな食品製造用の機械や器具を使用しますので安全のため、指導者の指示に従い、正しく使用すること。

食品衛生上、必要な服装、頭髪等、食品の安全確保を確実にこなうこと。

- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|------------------------------------|-----|---|---------|------------|
| 教科 (科目) | 農業 (食品製造) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 3年次 (食料環境) |
| 使用教科書 | 「食品製造」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の加工実習服 実習材料費 3000円程度 (検便代を含む) | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次に「食品製造」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

1. 農・畜産物の加工及び原材料の性質を理解させ、食品製造に必要な知識と技術を習得させるとともに、合理的な生産・管理ができる能力と態度を育てる。
2. 食品の特性と加工の原理を製造実習と関連づけて理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度の形成を目指す。

2 指導の重点

- ・食生活や地域の加工食品の実態を踏まえ、具体的事例を通して学習させる。
- ・加工食品の種類や需給、生産と利用などについて興味・関心を持たせる。
- ・食品加工に必要な材料の種類と特性について理解し、その加工食品の作り方を習得する。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|--------------|-----------|--|---|---|----------|------------------------|
| 4 5 | 食品加工と食品衛生 | 第5章 食品加工と食品衛生 ・食品による危害 ・食品添加物 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 資料活用技術 | ・食品の安全を守るための食品衛生の重要性を理解する。 ・食品を汚染する有害物質について知る。 ・食品添加物の種類と用途を知る。 | 12 | 授業の取組 レポート 定期テスト |
| 6 | 食品の変質と貯蔵 | 第3章食品の変質と貯蔵 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 資料活用技術 | ・食品が変質する原因を理解する。 ・食品の各種貯蔵法の原理とその方法を学ぶ。 | 10 | 授業の取組 レポート 定期テスト |
| 7 9 | 発酵食品の製造 | 第8章 発酵食品の製造 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 資料活用技術 | ・発酵食品の特徴を理解する。 ・微生物の種類とその働きの重要性を学ぶ。 | 12 | 授業の取組 レポート 定期テスト |
| 10 11 | 畜産物の加工 | 第7章 畜産物の加工 ・乳類の加工 ・肉類の加工 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 資料活用技術 | ・畜産物の種類と加工特性を知る。 | 10 20 | 授業の取組 レポート 定期テスト |
| 12 1 2 | 生産管理の改善 | 第10章 生産管理の改善 | 関心・意欲・態度 知識・理解 資料活用技術 | ・品質管理の意義を考える。 ・品質管理に必要な人の教育、施設、設備を理解する。 | 6 | 授業の取組 レポート 定期テスト |

4 課題・提出物等

実習及び指定課題に関するレポートやノート提出がある

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用技能 | 知識・理解 |
|------|---|---|--|---|
| 評価規準 | 食品加工の原理や食品産業の役割など食品の製造に関心をもち、原材料の加工適性や食品特性に応じた食品の製造や貯蔵に意欲的に取り組むとともに、食品加工の方法、衛生管理や作業体系を改善するなど品質と生産性の向上はかろうとする創造的に実践的な態度を身に付けようとしている。 | 原材料の加工適性や食品特性に応じた食品加工の方法を多面的に考察し、食品加工の方法に応じた器具の利用や品質管理を科学的に判断するとともに、食品の加工方法、衛生管理や作業体系を改善するなど品質と生産性の向上を図る創造的、実践的な能力を身に付けようとしている。 | 原材料の処理、食品加工、製造用器具の取扱い等食品の製造と貯蔵に関する基本的、体系的な技術を身に付け、食品の製造工程と生産環境の管理を適切に実施するとともに、食品に品質管理や工程管理などの製造や貯蔵の状況を的確に表現しようとしている。 | 原材料の処理、食品加工、製造用器具の取扱いなど食品の製造と貯蔵に関する基本的、体系的な知識を身に付け、原材料の加工適性、食品特性と加工原理を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、提出物 (ノート、レポート)、出席状況、学習状況及び製造実習の成果、取り組み状況について、総合的に評価します。 | | | |

6 担当者からの一言

実習については、全員で協力して取り組むこと。また、いろいろな食品製造用の機械や器具を使用しますので安全のため、指導者の指示に従い、正しく使用すること。

食品衛生上、必要な服装、頭髪等、食品の安全確保を確実にこなうこと。 ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|--------------|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（グリーンライフ） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「グリーンライフ」農文協 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし | | | | |

1 学習目標

交流、余暇活動の展開に必要な知識と技術を習得させ、農業や農村の持つ多面的な機能とサービスの特性を理解させるとともに、交流、余暇活動を導入した経営の改善を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・生活や地域の交流、余暇活動の実態を踏まえ、具体的事例を通して学習させる。
- ・創意、工夫による作品作りや材料の利用方法などについて興味・関心を持たせる。
- ・道具の正しい技術、安全な使用方法の知識などを理解させる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-------------|-----------------------|--------------------------|-------------------------------|---|--------------|-----------------------------|
| 4 5 | 第1章 「グリーンライフ」の世界 | ・ひょうたんやポップコーンなどの栽培 | 知識・理解 関心・意欲・態度 | ・グリーンライフを学ぶ目的を理解する。 ・農業交流に必要な栽培について身につける。 | 10 | 実習レポートの提出 実習への取組 |
| 6 7 8 | 第2章 農業・農村の機能の発見と活用 | ・竹玩具制作 ・栽培管理 | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 | ・余暇活動について理解する。 ・正しい道具の使い方を身につける。 | 10 10 | 実習レポートの提出 実習への取組 作品提出 |
| 9 10 | | ・民芸品制作 （わら、ひょうたんかぼちゃ） | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 | ・農村文化について理解する。 ・農業の活用を理解する。 ・正しい道具の使い方を身につける。 | 8 6 | 実習レポートの提出 実習への取組 |
| 11 12 | | ・和紙作り ・農村文化（門松） | 知識・理解 関心・意欲・態度 資料活用の技能 | ・農村文化について理解する。 ・農業の活用を理解する。 ・正しい道具の使い方を身につける。 ・ロープワークを身につける。 | 4 6 | 実習レポートの提出 実習への取組 作品提出 |
| 1 2 | 第3章 グリーン・ツーリズム | ・グリーン・ツーリズムの特徴 | 関心・意欲・態度 知識・理解 思考・判断・表現 | ・グリーン・ツーリズムについて理解する。 | 8 | レポートの提出 |

4 課題・提出物等

- ・実習終了後、レポートやノートなどの提出があり。
- ・作品提出

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|---|
| 評価規準 | 農村文化について関心を持ち、基礎的な技術について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけようとしている。 | 農村文化に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身につけようとしている。 | 農村文化に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 農村文化に関する基礎的な知識を身に付け、その特性や生育に適した環境を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 制作した作品、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から地域にある交流会や文化芸能などに興味を持っておくとよい。
- ・刃物などを用いるため、安全には十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|-------------|-----|---|---------|-----------|
| 教科 (科目) | 農業 (生物活用) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 3年次(食料環境) |
| 使用教科書 | 「生物活用」農文協 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし | | | | |

1 学習目標

生物活用とは、植物などと人間との関わりがもたらす効果を私たち人間の生存や心身の健康、快適環境の創造、教育、分化の発展、健全な社会生活の実現など、生活の向上に役立てようとするものである。そこで植物などに関する必要な知識と技術を習得し、植物などの特性や栽培に適した環境を理解すると共に、人間にどのように還元し、役立てていくかを考えさせる。

2 指導の重点

- ・実習を通して、植物などについての理解、技術や知識を習得させる。
- ・植物などにふれることにより、生物活用に対する興味・関心を高める。
- ・ロールプレイング等により、人間の生活や心身の健康にどのように役立てていくかを考えさせる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|-----------------------|----------------------------|---------------------------------------|----------------|---|----|---------------------------|
| 4 5 6 7 8 | 園芸の活用と効果 草花の栽培と活用 | 第1章 園芸の活用と効果 第2章 草花の栽培と活用 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | ・暮らしと園芸について学ぶ ・園芸の効果、園芸がもたらす心身の糧について学ぶ ・園芸の効果を生かす活用場面について学ぶ ・私たちの暮らしと草花の活用について学ぶ ・草花の活用とその効果 ・草花の特性と活用場面 | 28 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |
| 9 10 | 草花の栽培と活用 | 第2章 草花の栽培と活用 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | ・草花の栽培と活用について学ぶ ・草花の特性と活用のポイント ・草花の利用上の特性 ・花壇の活用と管理について学ぶ ・地域緑化、都市緑化について学ぶ ・野菜、ハーブの活用について学ぶ | 28 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |
| 11 12 | 野菜、ハーブの栽培と活用 | 第3章 野菜・ハーブの栽培と活用 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | ・園芸療法とその特徴について学ぶ ・園芸療法上の基本について学ぶ ・交流活動の広がりとプログラム作成の基本など ・ロールプレイングによる園芸療法の実践 ・動物の活用について学ぶ | 14 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |
| 1 2 | 園芸療法 交流活動プログラム 動物の活用 | 第4章 園芸療法 終章 交流活動プログラム 第2部 動物の活用 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | | | |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートの提出等

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|---|---|---|---|
| 評価規準 | 生物活用に関心を持ち、基礎的な栽培管理について主体的に取り組もうとすると共に実践的な態度を身に付けようとしている。 | 生物活用に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 生物活用に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用しようとしている。 | 生物活用に関する基礎的な知識を身につけ、その特性や生育に適した環境を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から福祉や植物などについて興味関心を持っておくと良い
- ・実習では農機具などを扱うため指導には従い、服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|-------------------------|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（総合実習） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「農業と環境」農文協 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 適宜学校斡旋の副教材を使用 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次で「農業と環境」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させ、経営や管理についての理解を深めさせる。

2 指導の重点

- ①各分野の総合的な実習を通して、実践的・体系的な知識・技術を習得させる。
- ②日本農業技術検定の取組み
- ③産社・総学発表や農業クラブにおける各種発表など積極的に取り組ませる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|------------------------|------------|----------------------------|----------------------------|--|----|----------------|
| 4 | 総合実習の概要と計画 | 1 学習内容の総合化（1） ・実習内容の検討 | 関心・意欲・態度 思考・判断・表現 | 農業の各分野の体系化について関心を持ち、改善・創造する態度を養う。 2年次で学習した農業の各分野の内容について検討し、発展・改善する方策を考える。 | 8 | 授業の取組 |
| 5 | | 2 学習内容の総合化（2） ・実習内容の具体化 | 関心・意欲・態度 知識・理解 活用の技能 | 実習内容について実施可能かどうか検討し、計画立案する。 計画立案について、資料や文献を活用し知識を深める。 | 7 | 授業の取組 |
| 6 7 8 9 10 | 総合実習の実際 | 1 学習活動の実際 | 関心・意欲・態度 知識・理解 活用の技能 | 経営や管理における実習活動について関心を持ち、意欲的に取り組む。 実習内容について、資料や文献を活用し先進農家見学なども取り入れる。 | 35 | 定期テスト 授業の取組 |
| 11 12 | | 2 学習活動のまとめ（1） | 思考・判断・表現 活用の技能 | 実習活動についてまとめ、具体的に表現することで、資料をまとめ活用する力を身につける。 | 10 | 定期テスト 授業の取組 |
| 1 2 | | 3 学習活動のまとめ（2） | 思考・判断・表現 活用の技能 | 実習活動についてまとめ、産社・総学発表会や研究発表会などで具体的に表現することで、資料をまとめ活用する力を身につける。 | 10 | 定期テスト 授業の取組 |

4 課題・提出物等

- ・実習終了後、レポートやノートなどの提出があり。
- ・夏季休業中に実習を行う（別途連絡）

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|-----------------------------------|
| 評価規準 | 農業の各分野に関する諸課題の解決について関心を持ち、問題解決について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 農業の各分野に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 農業の各分野に関する総合的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 農業の各分野に関する体験的、総合的な知識を身に付けようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、レポート、出欠、授業態度など観点別に総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・定員54名

| | | | | | |
|---------------|-------------------------|-----|---|---------|------------|
| 教科 (科目) | 農業 (農業と環境) | 単位数 | 4 | 年次 (系列) | 2年次 (食料環境) |
| 使用教科書 | 「農業と環境」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 適宜学校斡旋の副教材を使用 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし | | | | |

1 学習目標

農業生物の育成と環境の保全についての体験的、探求的な学習を通して、農業及び環境に関する学習について興味・関心を高めるとともに、科学的思考力と課題解決能力を育成し、農業及び環境に関する基礎的な知識と技術を習得させ、農業の各分野で活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①農業と環境に関する基礎基本的な知識を身につける。
- ②農業生産の基礎および環境の調査・保全・創造を学習する。
- ③プロジェクト学習で科学的思考力、課題を解決する能力を身につける。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|----|-------------------------|---|---|--|------|---------------------------------|
| 4 | 第1章 「農業と環境を学ぶ」 | ○講義 (雨天時中心) 第1章 第6章 ○実習 (晴天時中心) | 知識・理解 関心・意欲・ 態度 資料活用 の 技能 | ・農業と環境を学ぶ意義を理解する。 | 5 | 実習レポートの提出 実習への取組 |
| 5 | | | | | 5 | |
| 6 | 第3章 「栽培と飼育の基礎」 | ○実習 (晴天時中心) 3-2 作物とその管理 3-3 家畜の特性と飼育 ○講義 (雨天時中心) 3-1 作物の特性と栽培のしくみ | 知識・理解 関心・意欲・ 態度 資料活用 の 技能 思考・判断・ 表現 知識・理解 | ・作物の特性について理解する。 ・栽培と飼育についての知識と技術を身につける。 | 2 5 | 定期考査 実習レポートの提出 実習への取組 |
| 7 | | | | | 2 5 | |
| 8 | | | | | | 2 5 |
| 9 | | | | | 定期考査 | |
| 10 | 第5章 「環境調査と環境保全」 | ○実習 (晴天時中心) 5-1 環境の調査 5-2 環境の保全と修復 ○講義 (雨天時中心) 5-2 環境の保全と修復 | 知識・理解 関心・意欲・ 態度 資料活用 の 技能 思考・判断・ 表現 知識・理解 | ・環境の保全と修復技術を身につける。 ・環境管理について理解する。 | 3 0 | 実習レポートの提出 実習への取組 定期考査 |
| 11 | | | | | 3 0 | |
| 12 | 第6章 「学習のまとめと農業クラブ活動」 | ○講義、実習 第6章 プロジェクト学習のまとめと農業クラブ活動 | 知識・理解 関心・意欲・ 態度 資料活用 の 技能 思考・判断・ 表現 | ・暮らしと農業の関わりについて理解する。 | 2 0 | 実習レポートの提出 実習への取組 定期考査 |
| 1 | | | | | 2 0 | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

4 課題・提出物等

・実習レポートの提出。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用 の 技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|--|--|
| 評価規準 | 農業と環境および環境保全と栽培と飼育について関心を持ち、主体的に取り組み、実践的な態度を身に付けようとしている。 | 農業と環境に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 農業と環境に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 農業と環境に関する基礎的な知識を身に付け、その特性や生育に適した環境と栽培飼育の技術を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、ノート、出欠、授業態度など観点別に総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

・定員54名

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|---------|-----------|
| 教科 (科目) | 農業 (草花) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 2年次(食料環境) |
| 使用教科書 | 「草花」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし (ただし、3年次でこの科目を履修するには、2年次でこの科目を履修していること。) | | | | |

1 学習目標

草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解すると共に、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・実習を通して、草花についての栽培、管理、販売における技術や知識を習得させる。
- ・草花にふれることにより、草花に対する興味・関心を高める。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|----|-------------|-----------------|----------------|--|-----|---------------------------|
| 4 | 草花の生産と消費の動向 | 第1章 草花の生産と消費の動向 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・草花園芸の特徴について学ぶ ・草花生産と消費の動向について学ぶ | 2 8 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |
| 5 | 生活と草花の利用 | 第2章 生活と草花の利用 | | | | |
| 6 | 草花の特性と栽培技術 | 第3章 草花の特性と栽培技術 | | | | |
| 7 | 草花の特性と栽培技術 | 第3章 草花の特性と栽培技術 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・草花の生育と環境要因について学ぶ | 2 8 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |
| 8 | | | | | | |
| 9 | | | | | | |
| 10 | | | | | | |
| 11 | 繁殖と育種 | 第4章 繁殖と育種 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖と育種について学ぶ ・草花の繁殖について学ぶ ・繁殖方法 ・種子繁殖 | 1 4 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |
| 12 | | | | | | |
| 1 | | | | | | |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートの提出等

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|---|---|---|---|
| 評価規準 | 草花に関心を持ち、基礎的な栽培管理について主体的に取り組もうとすると共に実践的な態度を身に付けようとしている。 | 草花に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 草花に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用しようとしている。 | 草花に関する基礎的な知識を身につけ、その特性や生育に適した環境を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から草花について興味関心を持っておくと良い
- ・農具、農薬を用いるため指導には従い、服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|--------------------|-----|---|---------|-----------|
| 教科 (科目) | 農業 (草花) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 3年次(食料環境) |
| 使用教科書 | 「草花」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次に「草花」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解すると共に、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・実習を通して、草花についての栽培、管理、販売における技術や知識を習得させる。
- ・草花にふれることにより、草花に対する興味・関心を高める。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|-----------------------|--------------------|----------------------------|----------------|--|-----|---------------------------|
| 4 5 6 7 8 | 繁殖と育種 | 第4章 繁殖と育種 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖と育種について学ぶ ・草花の繁殖について学ぶ ・栄養繁殖について学ぶ ・挿し木、接ぎ木、取り木、株分け ・組織培養による繁殖について学ぶ | 2 8 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |
| 9 10 11 12 | 切り花生産 | 第5章 切り花生産 第6章 鉢物生産 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・切り花生産の特色について学ぶ ・切り花の品質保持について学ぶ ・一、二年草、宿根草、球根、花木の切り花について学ぶ ・鉢物生産について学ぶ ・鉢物生産の特色 ・鉢物生産資材と商品化技術 ・鉢花、観葉植物、洋ランについて学ぶ | 2 8 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |
| 1 2 | 花壇用草花生産 草花経営の改善 | 第7章 花壇用草花生産 第6章 草花経営の改善 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・花壇用草花生産の特色について学ぶ ・花壇用草花の栽培について学ぶ ・生産と流通の改善について学ぶ | 1 4 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートの提出等

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|---|---|---|---|
| 評価規準 | 草花に関心を持ち、基礎的な栽培管理について主体的に取り組もうとすると共に実践的な態度を身に付けようとしている。 | 草花に関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 草花に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用しようとしている。 | 草花に関する基礎的な知識を身につけ、その特性や生育に適した環境を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から草花について興味関心を持っておくと良い
- ・農具、農薬を用いるため指導には従い、服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|---------|------------|
| 教科 (科目) | 農業 (造園計画) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 2年次 (食料環境) |
| 使用教科書 | 海文堂出版「造園計画」 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし (ただし、3年次でこの科目を履修するには、2年次でこの科目を履修していること。) | | | | |

1 学習目標

造園の計画・設計に必要な知識と技術を習得させ、造園空間のもつ機能を理解させるとともに、目的や環境に応じた造園空間を創造する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

実際に造園の経験のある生徒が少ないことなどから

①実習・見学を通して造園の知識・技術を習得させる。

②実習を通して興味・関心を持たせる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|----|--------------------------------|-----------------------------------|----------------------|---|----|-----------------------------------|
| 4 | 第1章 造園計画の 意義と緑地 環境の役割 | 生活と緑地環境 造園計画と造園 空間 | 知識・理解 思考・判断 表現 | 造園の目的と計画およびそれに基づき造園空間の創造と利用について学習する | 18 | 定期テスト 授業・実習の 取り組み レポート提出 |
| 5 | | | | | | |
| 6 | 第2章 環境と造園 の様式 | 我が国の環境と 造園様式 外国の環境と造 園様式 | 知識・理解 思考・判断 表現 | 日本と外国の主な造園様式とその変遷並びにそれを取り巻く自然環境、文化的環境及び社会的環境を総合的に学習する。 | 36 | 定期テスト 授業・実習の 取り組み レポート提出 |
| 7 | | | | | | |
| 8 | | | | | | |
| 9 | | | | | | |
| 10 | | | | | | |
| 11 | | | | | | |
| 12 | 第3章 造園製図と 造園デザイ ンの基礎 | 造園製図の基礎 造園デザインの 基礎 | 知識・理解 思考・判断 表現 | 造園の計画や設計内容の記録、伝達する技術を学習する。また、植栽のデザインやデザインの技法に関する知識と技術を習得する。 | 16 | 定期テスト 授業・実習の 取り組み レポート提出 |
| 1 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

4 課題・提出物等

- 1 見学・実習が伴う授業なので、協力して取り組むように心掛けてください。
- 2 観察の際には、五感の全てを活用し、全体をよく見るよう心掛けてください。
- 3 実習手帳・レポートは表現を工夫し、気付いたことは全て記録するよう心掛けてください。
- 4 安全指導の観点から、指導者の指示に従い、服装は実習服・実習帽を必ず着用してください。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|---|---|
| 評価規準 | 造園や樹木に関心を持ち、向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、創造的実践的な態度を身に付けようとしている。 | 造園の諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を判断し表現する実践的な能力を身に付けようとしている。 | 造園に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 造園に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や役割を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業への取り組み態度を総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から庭園・樹木などについての興味、関心を持っておくと良い。
- ・安全に実習を行うため、指導には従い、服装を整えて行うこと。
- ・定員27名。

| | | | | | |
|---------------|----------------------|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（造園計画） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 海文堂出版「造園計画」 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次に「造園計画」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

造園の計画・設計に必要な知識と技術を習得させ、造園空間のもつ機能を理解させるとともに、目的や環境に応じた造園空間を創造する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

実際に造園の経験のある生徒が少ないことなどから

- ①実習・見学を通して造園の知識・技術を習得させる。
- ②実習を通して興味・関心を持たせる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|-------------|----------------------|----------------------|---|----|-----------------------------------|
| 4 | 第4章庭園の計画・設計 | 住宅庭園 学校庭園 屋上緑化 | 知識・理解 思考・判断 表現 | 住宅庭園と学校庭園及び屋上緑化などの特殊基盤緑化の構成・機能・環境条件など庭園の計画・設計に必要なことを学習する。 | 40 | 定期テスト 授業・実習の 取り組み レポート提出 |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| 7 | | | | | | |
| 8 | | | | | | |
| 9 | 第5章緑地の計画・設計 | 都市緑地 農村緑地 自然公園 | 知識・理解 思考・判断 表現 | 種類や機能、役割、環境条件など公園や緑地の計画・設計に関する基礎的な内容を学習する。 | 30 | 定期テスト 授業・実習の 取り組み レポート提出 |
| 10 | | | | | | |
| 11 | | | | | | |
| 12 | | | | | | |
| 1 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |

4 課題・提出物等

- 1 見学・実習が伴う授業なので、協力して取り組むように心掛けてください。
- 2 観察の際には、五感の全てを活用し、全体をよく見るよう心掛けてください。
- 3 実習手帳・レポートは表現を工夫し、気付いたことは全て記録するよう心掛けてください。
- 4 安全指導の観点から、指導者の指示に従い、服装は実習服・実習帽を必ず着用してください。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|---|---|
| 評価規準 | 造園や樹木に関心を持ち、向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、創造的実践的な態度を身に付けようとしている。 | 造園の諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を判断し表現する実践的な能力を身に付けようとしている。 | 造園に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 造園に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や役割を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業への取り組み態度を総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から庭園・樹木などについての興味、関心を持っておくと良い。
- ・安全に実習を行うため、指導には従い、服装を整えて行うこと。
- ・定員27名。

| | | | | | |
|---------------|--|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（造園技術） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 2年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「造園技術」電気大 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし（ただし、3年次でこの科目を履修するには、2年次でこの科目を履修していること。） | | | | |

1 学習目標

造園の施工と管理に必要な知識と技術を習得させ、造園の特質を理解させるとともに、合理的に施工し、維持管理する態度と能力を育てる。

2 指導の重点

- ・地域の実態を踏まえて、体験的に施工技術、知識を学ばせる。
- ・常日頃より、庭園・公園についてその観賞を通して施工、管理に興味関心を持たせる。
- ・造園緑化材料（樹木）についてその育成技術を体系的に学ばせ理解させる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-----------------------------|---------|--|-------------|--|----|--|
| 4 5 6 7 9 10 | 造園施工の特色 | 第1章 造園技術の特色と役割 | 関心・意欲・態度 | ・庭園や公園、緑地などにおける造園技術に関心を持ち、主体的に取り組もうとする態度を身につける。 ・植栽施工における基礎的な知識、技術を身につける。 | 50 | 定期テスト 授業の取り組み 調査レポート ノート提出 |
| 知識・理解 | | | | | | |
| 11 12 1 2 3 | 造園土木施工 | 第2章 造園植栽施工 | 思考・判断 表現 | ・造成、土壌、施工などの土木施工に関心を持ち、主体的に取り組もうとする態度を身につける。 ・造園土木施工における基礎的な知識、技術を身につける。 | 20 | 定期テスト 授業の取り組み ノート提出 定期テスト 授業の取り組み ノート提出 |
| 知識・理解 | | | | | | |
| | | 第3章 造園土木施工 ・敷地造成、土壌改良 ・コンクリート工 ・給排水工 ・造園施設工 ・庭園施設工 | 資料活用 の技能 | | | |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートのまとめ
- ・学期ごとのノート提出

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用 の技能 | 知識・理解 |
|------|---|---|---|---|
| 評価規準 | 庭園や公園に関心を持ち、造園施工の技術改善、向上を目指して主体的に取り組もうとするともに、創造的実践的な態度を身に付けようとしている。 | 造園施工の諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する実践的な能力を身に付けようとしている。 | 造園施工に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 造園施工に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や役割を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業への取り組み態度を総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から庭園や公園、樹木についての興味、関心を持っておくと良い。
- ・農具、管理機械、農薬を用いるため指導には従い服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|----------------------|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（造園技術） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「造園技術」電気大 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次に「造園技術」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

造園の施工と管理に必要な知識と技術を習得させ、造園の特質を理解させるとともに、合理的に施工し、維持管理する態度と能力を育てる。

2 指導の重点

- ・地域の実態を踏まえて、体験的に施工技術、知識を学ばせる。
- ・常日頃より庭園、公園についてその観賞を通して施工、管理に興味関心を持たせる。
- ・造園緑化材料（樹木）についてその育成技術を体系的に学ばせ理解させる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|---|------|----------------|---|--|-----|--|
| 4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 | 造園管理 | 第4章 植物及び工作物の管理 | 知識・理解 思考・判断 表現 資料活用 の 技能 | ・造園管理に関心を持ち、主体的に取り組もうとする態度を身につける。 ・植物および工作物管理における基礎的な知識、技術を身につける。 ・実習 校地内の環境緑化材料の管理 冬囲いの撤去 ロープワークの基礎習得 樹木の整枝、剪定 芝草の刈り込み、除草 地被植物の管理 施肥、病虫害防除等 松の剪定 雪囲いの方法 植物材料の繁殖等 | 4 6 | 定期テスト 授業の取り組み 調査レポート ノート提出 |
| 2 | | 第5章 合理的な施工と管理 | 知識・理解 思考・判断 表現 資料活用 の 技能 | ・合理的な施工管理に関心を持ち、主体的に取り組もうとする態度を身につける。 ・施工管理の合理化について知識、技術を身につける。 | 2 4 | 定期テスト 授業の取り組み ノート提出 定期テスト 授業の取り組み ノート提出 |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートのまとめ
- ・学期ごとのノート提出

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用 の 技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|---|
| 評価規準 | 庭園や公園に関心を持ち、造園管理の技術改善、向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、創造的実践的な態度を身に付けようとしている。 | 造園管理の諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する実践的な能力を身に付けようとしている。 | 造園管理に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 造園管理に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や役割を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業への取り組み態度を総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から庭園や公園、樹木についての興味、関心を持っておくと良い。
- ・農具、管理機械、農薬を用いるため指導には従い服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|--|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（環境緑化材料） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 2年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「環境緑化材料」電気大 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし（ただし、3年次でこの科目を履修するには、2年次でこの科目を履修していること。） | | | | |

1 学習目標

環境緑化のための植物の育成や造園空間の構成に使用する材料について必要な知識と技術を習得させ、環境緑化材料の特性を理解させるとともに、材料を適切に取り扱い、活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・造園緑化材料（植物材料）についてその育成技術を体系的に学ばせ理解させる。
- ・常日頃より庭園、公園についてその観賞を通して構成材料に興味関心を持たせる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-----------------------------|------------------|-----------------------|---|--|-----|---|
| 4 5 6 7 9 10 | 環境緑化材料 植物材料 | 校地内緑化植物 | 知識・理解 思考・判断 表現 資料活用 の 技能 | ・実習 校地内の環境緑化材料の管理 冬囲いの撤去 ロープワークの基礎習得 樹木の整枝、剪定 芝草の刈り込み、除草 地被植物の管理 施肥、病虫害防除等 松の剪定 雪囲いの方法 植物材料の繁殖等 | 4 6 | 定期テスト 授業の取り 組み 調査レポー ト ノート提出 |
| 11 12 | 環境緑化材料の 特色と役割 | 環境緑化材料 | 知識・理解 思考・判断 表現 | ・環境緑化材料の特色について学ぶ ・環境緑化材料の役割について学ぶ | 6 | 定期テスト 授業の取り 組み ノート提出 |
| 1 2 3 | 植物材料 | 造園樹木 地被植物 花壇用草花 | 知識・理解 思考・判断 表現 | ・地域の環境緑化や造園空間の構成に 使用されている 緑化材料（植物） を選定する ・造園樹木の種類、特性、育成技術に ついて学ぶ ・地被植物や花壇用植物の種類、特性 、育成技術について学ぶ | 1 8 | 定期テスト 授業の取り 組み ノート提出 |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートのまとめ
- ・学期ごとのノート提出

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用 の 技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|---|---|
| 評価規準 | 環境緑化に関心を持ち、その技術改善、向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、創造的実践的な態度を身に付けようとしている。 | 環境緑化材料の、基礎的・基本的な知識と技術を基にそれを適切に取り扱い、活用表現する実践的な能力を身に付けようとしている。 | 環境緑化材料に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 環境緑化材料に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や役割を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業への取り組み態度を総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から庭園や公園またそれを構成する材料についての興味、関心を持っておくと良い。
- ・農具、管理機械、農薬を用いるため指導には従い服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|------------------------|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（環境緑化材料） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 「環境緑化材料」電気大 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次に「環境緑化材料」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

環境緑化のための植物の育成や造園空間の構成に使用する材料について必要な知識と技術を習得させ、環境緑化材料の特性を理解させるとともに、材料を適切に取り扱い、活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・造園緑化材料（植物材料）についてその育成技術を体系的に学ばせ理解させる。
- ・常日頃より庭園、公園についてその観賞を通して構成材料に興味関心を持たせる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-----------------------------|----------------|---------|---|---|-----|---|
| 4 5 6 7 9 10 | 環境緑化材料 植物材料 | 校地内緑化植物 | 知識・理解 思考・判断 表現 資料活用 の 技能 | ・実習 校地内の環境緑化材料の管理 冬囲いの撤去 ロープワークの基礎習得 樹木の整枝、剪定 芝草の刈り込み、除草 地被植物の管理 施肥、病虫害防除等 松の剪定 雪囲いの方法 植物材料の繁殖等 | 4 6 | 定期テスト 授業の取り 組み 調査レポー ト ノート提出 |
| 11 12 1 | 岩石材料 | 岩石材料 | 知識・理解 思考・判断 表現 | ・岩石材料の分類について学ぶ ・岩石の種類と特徴について学ぶ ・自然石材の特質と利用について学ぶ ・加工石材の特質と利用について学ぶ ・地域産の岩石について学ぶ | 1 2 | 定期テスト 授業の取り 組み ノート提出 |
| 2 | 各種材料 | 各種材料 | 知識・理解 思考・判断 表現 | ・木材の分類、特性、規格について学 ぶ ・竹材の種類と特性、規格について学 ぶ ・金属材料種類と特性、製品とその用 途について学ぶ ・コンクリート製品の種類とその用途 について学ぶ ・窯製品の種類とその用途について学 ぶ | 1 2 | 定期テスト 授業の取り 組み ノート提出 |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートのまとめ
- ・学期ごとのノート提出

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用 の 技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|---|---|
| 評価規準 | 環境緑化に関心を持ち、その技術改善、向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、創造的実践的な態度を身に付けようとしている。 | 環境緑化材料の、基礎的・基本的な知識と技術を基にそれを適切に取り扱い、活用表現する実践的な能力を身に付けようとしている。 | 環境緑化材料に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しようとしている。 | 環境緑化材料に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や役割を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業への取り組み態度を総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃から庭園や公園またそれを構成する材料についての興味、関心を持っておくと良い。
- ・農具、管理機械、農薬を用いるため指導には従い服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|---------|-----------|
| 教科 (科目) | 農業 (植物バイオテクノロジー) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 2年次(食料環境) |
| 使用教科書 | 「植物バイオテクノロジー」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし (ただし、3年次でこの科目を履修するには、2年次でこの科目を履修していること。) | | | | |

1 学習目標

植物バイオテクノロジーにおける必要な知識と技術を習得させ、植物について細胞レベルでの理解をすると共に、植物バイオテクノロジーにおける生産物の生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・座学、実験を通して、植物バイオテクノロジーにおける技術や知識を習得させる。
- ・実験を行うことにより植物バイオテクノロジーに対する興味・関心を高める。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|-----------------------|-----------------|-----------------------|------------------------|--|-----|-------------------------------|
| 4 5 6 7 8 | 生き物に学ぶバイオテクノロジー | 第1章 植物バイオテクノロジーの意義と役割 | 知識、理解、 関心、意欲、 態度 | ・バイオテクノロジーの世界について学ぶ ・バイオテクノロジーの体系、技術と利用について学ぶ ・バイオテクノロジーを学ぶにあたって必要な知識を身につける | 2 8 | 実習・授業の 取組 定期テスト レポート |
| 9 10 11 12 | 植物組織培養の基礎 | 第3章 植物組織培養の基礎 | 知識、理解、 関心、意欲、 態度 | ・植物組織培養の基礎について学ぶ ・植物組織培養のしくみ、組織培養のねらい、植物組織培養の操作について学ぶ ・植物組織培養の種類と方法について学ぶ ・植物組織培養の種類とその目的、培地と培養方法について学ぶ ・実験、研究の進め方について学ぶ | 2 8 | 実習・授業の 取組 定期テスト レポート |
| 1 2 3 | 植物組織培養の基礎 | 第3章 植物組織培養の基礎 | 知識、理解、 関心、意欲、 態度 | ・植物組織培養の基礎について学ぶ ・植物組織培養のポイントについて学ぶ ・培養材料、無菌条件、培地条件、培養容器内条件、順化について学ぶ ・施設、設備と機器、器具の基礎について学ぶ | 1 4 | 実習・授業の 取組 定期テスト レポート |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートの提出等

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|---|--|--|--|
| 評価規準 | 植物バイオテクノロジーに関心を持ち、基礎的な栽培管理について主体的に取り組みようとすると共に実践的な態度を身に付けようとしている。 | 植物バイオテクノロジーに関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 植物バイオテクノロジーに関する基礎的・基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用しようとしている。 | 植物バイオテクノロジーに関する基礎的な知識を身につけ、その特性や生育に適した環境を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃からバイオテクノロジーについて興味関心を持っておくと良い
- ・薬品を用いるため指導には従い、服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|-----------------------------|-----|---|--------|----------|
| 教科（科目） | 農業 (植物バイオテクノロジー) | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年(食料環境) |
| 使用教科書 | 「植物バイオテクノロジー」実教 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 2年次に「植物バイオテクノロジー」を履修していること。 | | | | |

1 学習目標

植物バイオテクノロジーにおける必要な知識と技術を習得させ、植物について細胞レベルでの理解をすること共に、植物バイオテクノロジーにおける生産物の生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・座学、実験を通して、植物バイオテクノロジーにおける技術や知識を習得させる。
- ・実験を行うことにより植物バイオテクノロジーに対する興味・関心を高める。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-----------------------|----------------------------------|--|----------------|--|----|---------------------------|
| 4 5 6 7 8 | 植物組織培養の基礎 | 第3章 植物組織培養の基礎 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備と機器・器具について学ぶ ・実験準備室、無菌室、クリーンベンチ、培養室について学ぶ ・オートクレーブなどの機器について学ぶ ・ピペットなどの器具について学ぶ ・ガラス器具の洗浄について学ぶ ・培地の構成要素と調整について学ぶ ・無菌操作について学ぶ | 28 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |
| 9 10 11 12 | 植物バイオテクノロジーの原理 植物バイオテクノロジーの実際 | 第2章 バイオテクノロジーの原理 第4章 植物バイオテクノロジーの実際 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の表情と働きについて学ぶ ・受精の仕組みと働きについて学ぶ ・遺伝子の働きについて学ぶ ・無病苗作出技術について学ぶ ・大量増殖技術について学ぶ | 28 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |
| 1 2 | バイオマスの利用 植物バイオテクノロジーの展望 | 第5章 バイオマスの利用 第6章 植物バイオテクノロジーの展望 | 知識、理解、関心、意欲、態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスとは何かについて学ぶ ・バイオマス利用の実際について学ぶ ・植物バイオテクノロジーの成果と動向について学ぶ ・植物バイオテクノロジーの今後の可能性について学ぶ | 14 | 実習・授業の取組 定期テスト レポート |

4 課題・提出物等

- ・実習後のレポート提出
- ・調査レポートの提出等

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|--|--|
| 評価規準 | 植物バイオテクノロジーに関心を持ち、基礎的な栽培管理について主体的に取り組もうとすると共に実践的な態度を身に付けようとしている。 | 植物バイオテクノロジーに関する諸課題の解決を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 植物バイオテクノロジーに関する基礎的・基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用しようとしている。 | 植物バイオテクノロジーに関する基礎的な知識を身につけ、その特性や生育に適した環境を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期テスト、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する | | | |

6 担当者からの一言

- ・日頃からバイオテクノロジーについて興味関心を持っておくと良い
- ・薬品を用いるため指導には従い、服装を整え、安全に十分気をつける。
- ・定員27名

| | | | | | |
|---------------|----------|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（食品流通） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 新版食品流通 | | | | |
| 副教材等 | 新版食品流通 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 特になし | | | | |

1 学習目標

食品流通を学ぶことにより、世の中の現行のシステムを理解する。

2 指導の重点

- ・経済活動との関係について学ばせる。また、食品流通のしくみや働きについて学ばせる。
- ・食品の品質について学ばせる。また、物流について学ばせる。
- ・食品のマーケティングについて学ばせる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|--------------------------|---|--|---|--|----|------------------------|
| 4 5 6 7 | 現代生活と 経済活動と の食品流通 の関わりと しくみ働き | 第1章現代生活と食品 流通 第2章経済活動と食料 第3章食品流通のしく みと働き | 関心・意欲・態 度 知識・理解 思考・判断・表 現 | 流通の始まりと発展 流通の働き 食品流通の役割 経済発展と食料消費 世界の食糧事情 日本の食生活、食糧需給と自給率 私たちをとりまくフードシステム 食品流通の特徴 食品流通のしくみ 価格の形成と流通経費 | 30 | 定期テスト 授業の取組 レポート |
| 8 9 | 主な食品流 通 | 第4章おもな食品の流 通 | 関心・意欲・態 度 知識・理解 思考・判断・表 現 | 米の流通 麦の流通 青果物の流通 畜産物の流通 加工食品の流通 | 15 | 定期テスト 授業の取組 レポート |
| 10 11 12 1 2 | 食品の品質 、規格、物 流 | 第5章食品の品質と規 格 第6章食品の物流 | 関心・意欲・態 度 知識・理解 思考・判断・表 現 | 食品の品質と安全性 品質と品質保証 規格、表示と検査 食品流通と包装 食品の変質と品質保持 物流のしくみと働き 食品の輸送 食品の保管 情報処理と物流情報システム | 15 | 定期テスト 授業の取組 レポート |
| | 食品のマ ーケティング | 第7章食品マ ーケティング | 関心・意欲・態 度 知識・理解 思考・判断・表 現 | マーケティングとは何か マーケティングの発展 マーケティングの戦略の方法 食品マーケティングの実態 | 10 | 定期テスト 授業の取組 レポート |

4 課題・提出物等

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|---|--|--|--------------------------------------|
| 評価規準 | 食品流通について関心をもち、食品流通について深く学ぶ姿勢があるととともに、食品流通について主体的に考えようとしている。 | 食品流通についての思考を深め、基礎的・基本的な知識を持ち、重要な事項や順序を適切に判断し、表現する能力を身に付けようとしている。 | 食品流通についての基礎的・基本的な知識を身に付け、流通に関わる技能を適切に活用しようとしている。 | 食品流通に関する基礎的な知識を身に付け、その特性を理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査、レポート、出欠、授業態度など総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

- ・定員40名

| | | | | | |
|---------------|--|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 農業（課題研究） | 単位数 | 4 | 年次（系列） | 3年次（食料環境） |
| 使用教科書 | 農業・各科目の教科書 | | | | |
| 副教材等 | 指定の実習服 適宜、学校斡旋の副教材を使用 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 「課題研究」を履修する生徒は、食料環境を主系列とし、課題研究を含めて農業科目を20単位以上履修すること。 | | | | |

1 学習目標

農業に関する課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的・創造的な学習態度を育てる。

2 指導の重点

- (1) 調査・研究・実験 (2) 作品製作 (3) 産業現場等における実習
(4) 職業資格の取得 (5) 学校農業クラブ活動

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|--------------|-----------------------------|----------|---|----|---|
| 4 | 課題設定 (計画) | これまで履修してきた教科書、ノート、関係する文献、資料 | 関心・意欲・態度 | 1. 学習の目標・目的 2. 課題領域の決定 3. 課題設定についての相談 4. 課題決定 | 60 | 授業の取組 レポート 作品等 |
| 5 | | | 知識・理解 | | | |
| 6 | | | 思考・判断・表現 | 1. 学習進捗の管理 2. レポートの作成記入の工夫 | | |
| 7 | (実施) | 調べ学習 | | | | |
| 8 | (実施) | 調べ学習 | 関心・意欲・態度 | 3. 自己評価 4. 進捗相談 5. 学習計画の修正と改善 6. 中間発表会の準備 | 60 | 授業の取組 レポート 作品等 |
| 9 | | | 知識・理解 | | | |
| 10 | | | 思考・判断・表現 | | | |
| 11 | | | | | | |
| 12 | (まとめ) | 調べ学習 | 関心・意欲・態度 | 1. 実施経過の分析 2. 結果分析 3. 考察 4. 発表練習と発表 5. レポート（活動記録集）の提出 | 20 | 授業の取組 レポート 作品 中間発表 発表等 まとめ集等 |
| 1 | | | 知識・理解 | | | |
| 2 | | | 思考・判断・表現 | | | |

4 課題・提出物等

レポート（活動記録集）

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|---|---|---|--|
| 評価規準 | 農業に関する課題を主体的に設定し、自主的、継続的に学習する姿勢と計画性、実践力、探求的、創造的な態度を身に付けようとしている。 | 農業の各科目で学習したそれぞれの知識や技術を関連づけ、総合化させ学習の深化を図ろうとしている。 | 各科目で学習した知識と技術を再確認し、自らの課題解決に活用できる、より高度な知識と技術を習得しようとしている。 | 自らの興味・関心につながる学習の意義を理解し、自律的な学習や工夫する学習および自らを評価する態度から知識の理解を進めようとしている。 |
| 評価方法 | レポート、活動発表成果、出欠、授業態度など観点別に総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

・人数制限なし